

科目の教育目標・授業計画 「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	0101	科 目 名	パソコン実習			科目区分	非常勤
科 目 群	パソコン入門	担当講師	小島善文／伊東達三			履修区分	実習
開講学年	1	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	選必
教 科 書	教科書：30 時間でマスター Word&Ecel 2016 / プレゼンテーション+PowerPoint 2016			参考書	教科書補足資料		
成績評価	毎回の課題提出 80%、平常点（授業への取り組み）や授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

PC の基本操作に始まり、Word・Excel・PowerPoint の基本的な操作や応用を、解説・例題・実践と段階的に指導する。今後の学生生活や社会人としても使用頻度が高いソフトを、各種課題を通して基礎からある程度の応用までの理解度を上げ、多様な利用が出来る基礎能力を取得する。	この授業の目的、内容、評価方法、参考資料の作成
---	-------------------------

2. 到達目標

Office の操作を理解し活用することができるようになる

3. 授業計画

後期	
1	PC 基本 ログイン、パスワード設定、WINDOWS 基本操作
2	Word 基本 基本設定・操作、各種文字入力・変換
3	Word 基本 文書の設定・入力・変換・編集
4	Word 応用 文書の編集（配置）
5	Word 応用 文書の編集（表挿入）
6	Word 応用 文書の編集（図形挿入）
7	Word 応用 文書の編集（総合）
8	Excel 基本 基本設定・操作、数値入力
9	Excel 基本 基本的なワークシートの編集
10	Excel 応用 ワークシートの編集
11	Excel 応用 グラフの作成
12	Excel 応用 グラフの作成
13	Excel 応用 ワークシートの編集、グラフの作成（総合）
14	PowerPoint 基本設定・操作／テンプレートを使った編集
15	PowerPoint スライドの作成
16	PowerPoint プレゼンテーション課題の作成
17	PowerPoint プレゼンテーション課題の作成
18	課題発表

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	0108	科 目 名	社会人基礎力講座			科目区分	非常勤
科 目 群	教養	担当講師	相原 芳美			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	使用しない			参考書	レジュメ・ワークシート		
成績評価	提出課題 60% 課題内容 30% まとめテスト 20%						

1. 授業概要

振返りやグループワークを通して、就職に対する意識を高め、就職活動に向けての準備をする。会社の仕組みや企業が求める人材について理解する。

2. 到達目標

マナーやコミュニケーションなどの基礎的な社会性（社会人基礎力）を身に付けることが出来る。

3. 授業計画

後期	
1	本授業の目的の理解・「働くということ」「社会人基礎力」の意味と意義の理解
2	社会人に必要なマナーの理解（挨拶・言葉遣い・第一印象・SNS 利用のマナー）
3	コミュニケーション力向上ワークショップ
4	「チームワーク」向上のワークショップ
5	「前に踏み出す力」向上のワークショップ
6	「考え抜く力」向上のワークショップ
7	まとめテスト
8	就職活動の流れとスケジュールの理解・履歴書とエントリーシートの書き方 I
9	就職活動の流れとスケジュールの理解・履歴書とエントリーシートの書き方 II
10	「自己理解」のためのワークショップ①（価値分析・モチベーション）
11	「自己理解」のためのワークショップ②（好きなこと・得意なこと）
12	「自己理解」のためのワークショップ③（社会人基礎力の再評価・自己PR）
13	まとめテスト
14	会社の仕組みとハウレンソウ・企業が求める人材・面接に向けての心構え I
15	会社の仕組みとハウレンソウ・企業が求める人材・面接に向けての心構え II
16	面接練習
17	まとめテスト
18	講評

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	0109	科 目 名	日本語講座			科目区分	専任
科 目 群	教養	担当講師	小野 恭子			履修区分	講義
開講学年	1	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	選択
教 科 書	「日本語能力試験ドリル&模試」他			参考書			
成績評価	試験 70%、小テスト 10%、提出物 10%、授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

能力別クラスで日本語の言語知識（漢字・語彙・文法）を理解・習得し、読解・聴解等の応用力を養う。

2. 到達目標

・能力別クラスでの Can-do リストに沿って、日本語の 4 技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）を伸ばし、総合的な日本語力を身に付ける。

3. 授業計画

前期	
1	漢字・語彙・文法（1.自動詞・他動詞／1.助詞①）、聴解問題
2	漢字・語彙・文法（2.複合動詞①／2.助詞②）、読解問題
3	漢字・語彙・文法（3.複合動詞②／3.接続表現①）、聴解問題
4	漢字・語彙・文法（4.する動詞／4.接続表現②）、読解問題
5	漢字・語彙・文法（5.意味のある動詞／5.受身・使役・使役受身）、聴解問題
6	漢字・語彙・文法（6.い形容詞／6.文末表現）、読解問題
7	中間テスト
8	漢字・語彙・文法（7.な形容詞／7.敬語①尊敬語）、聴解問題
9	漢字・語彙・文法（8.対義語①／8.敬語②謙譲語）、読解問題
10	漢字・語彙・文法（9.対義語②／9.敬語③丁寧語・美化語）、聴解問題
11	漢字・語彙・文法（10.副詞／10.敬語④）、読解問題
12	漢字・語彙・文法（11.擬音語・擬態語／JLPT 対策問題）
13	漢字・語彙・文法（12.カタカナ語①／JLPT 対策問題）
14	漢字・語彙・文法（13.カタカナ語②／JLPT 対策問題）
15	漢字・語彙・文法（14.カタカナ語③／JLPT 対策問題）
16	漢字・語彙・文法（15.カタカナ語④／JLPT 対策問題）
17	前期期末試験
18	活用授業
後期	
1	漢字・語彙・文法（1.漢字読み・表記／1.文の文法 1）、聴解問題
2	漢字・語彙・文法（2.漢字読み・表記／2.文の文法 1）、読解問題
3	漢字・語彙・文法（3.文脈規定（動詞・名詞）／3.文の文法 2）、聴解問題
4	漢字・語彙・文法（4.文脈規定（形容詞）／4.文の文法 2）、読解問題
5	漢字・語彙・文法（5.言い換え類義（動詞・名詞）／5.文章の文法 3）、聴解問題
6	漢字・語彙・文法（6.言い換え類義（形容詞・副詞）／6.文章の文法 3）、読解問題
7	中間テスト
8	漢字・語彙・文法（7.用法（動詞・名詞）／7.文法形式まとめ）、聴解問題
9	漢字・語彙・文法（8.用法（動詞・名詞）／8.文法形式まとめ）、読解問題
10	漢字・語彙・文法（9.用法（動詞・名詞）／9.文法形式まとめ）、読解問題

1 1	漢字・語彙・文法（10.用法（形容詞・副詞）／JLPT 対策問題）、聴解問題
1 2	漢字・語彙・文法（11.用法（形容詞・副詞）／JLPT 対策問題）、読解問題
1 3	総合問題
1 4	総合問題
1 5	総合問題
1 6	総合問題
1 7	後期期末試験
1 8	活用授業

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	0110	科 目 名	一般教養講座			科目区分	専任・兼任
科 目 群	一般教育	担当講師	菅野敬祐・麻生裕之			履修区分	選択
開講学年	1 年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	各授業でプリント配布			参考書			
成績評価	各課題提出 60%、課題の点数 30%、授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

過去に学習した範囲の数学と漢字の復習し理解を深める。また、就職試験に必要な基礎学力を身に付ける。授業は演習形式で、各回オリジナルの課題で行う。

2. 到達目標

授業に必要な基礎学力の向上を図り、授業での理解度や予習・復習が出来るようになる。また、新聞記事を読んで設問に答えられる一般教養面も向上させる。

3. 授業計画

前期			
1	漢字：読み取り・書き取り①	数学：式の計算	読売ワークシート
2	漢字：読み取り・書き取り②	数学：多項式と単項式の乗除	読売ワークシート
3	漢字：形が似ている漢字	数学：乗法公式	読売ワークシート
4	漢字：同音異義語・同訓異字	数学：因数分解	読売ワークシート
5	漢字：敬語表現・熟語	数学：平方根	読売ワークシート
6	漢字：類義語・対義語	数学：1 次方程式	読売ワークシート
7	漢字：ことわざ・慣用句	数学：連立方程式	読売ワークシート
8	漢字：三字熟語・四字熟語	数学：2 次方程式	読売ワークシート
9	漢字：音読み・訓読み①	数学：2 次方程式の活用	読売ワークシート
10	漢字：音読み・訓読み②	数学：2 次方程式の活用	読売ワークシート
11	漢字：間違いやすい漢字①	数学：1 次関数	読売ワークシート
12	漢字：学習漢字の音訓	数学：関数 $y = ax^2$	読売ワークシート
13	漢字：熟語の成り立ち・読み方	数学：立体の表面積・体積	読売ワークシート
14	漢字：故事成語・名言格言	数学：平行線と角・相似	読売ワークシート
15	漢字：間違いやすい漢字②	数学：三平方の定理	読売ワークシート
16	漢字：間違いやすい漢字③	数学：三平方の定理	読売ワークシート
17	漢字：まとめ	数学：まとめ	読売ワークシート
後期			
1	漢字：一字漢字の読み・書き①	数学：多項式の乗法・公式	読売ワークシート
2	漢字：一字漢字の読み・書き②	数学：式の展開・因数分解	読売ワークシート
3	漢字：一字漢字の読み・書き③	数学：根号を含む式の乗法	読売ワークシート
4	漢字：熟語の読み・書き①	数学：根号を含む式の計算	読売ワークシート
5	漢字：熟語の読み・書き②	数学：2 次方程式とその解	読売ワークシート
6	漢字：熟語の読み・書き③	数学：2 次方程式の解き方①	読売ワークシート
7	漢字：熟語の読み・書き④	数学：2 次方程式の解き方②	読売ワークシート
8	漢字：複数の音読み・訓読み	数学：2 次方程式の利用①	読売ワークシート
9	漢字：複数の音読み・訓読み	数学：2 次方程式の利用②	読売ワークシート
10	漢字：誤りやすい読み・書き	数学：関数 $y = ax^2$ ・グラフ	読売ワークシート

1 1	漢字：同訓異字・同音異義語	数学：2 次関数の変域・変化の割合	読売ワークシート
1 2	漢字：二字熟語	数学：放物線と直線	読売ワークシート
1 3	漢字：三字熟語	数学：相似な図形・相似の利用	読売ワークシート
1 4	漢字：四字熟語	数学：相似な図形の面積比・体積比	読売ワークシート
1 5	漢字：類義語	数学：円周角の定理・利用	読売ワークシート
1 6	漢字：対義語	数学：三平方の定理・利用	読売ワークシート
1 7	漢字：まとめ	数学：まとめ	読売ワークシート

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	0111	科 目 名	海外研修			科目区分	各科共通
科 目 群	教養	担当講師	校長			履修区分	選択
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	実習
教 科 書	無し			参考書	無し		
成績評価	報告書 100%						

1. 授業概要

年度末の3月に海外へ10日間の語学研修を実施

2. 到達目標

知識見聞を広め、グローバル社会を理解する。

3. 授業計画

後期	
1	【研修内容】 前年度実績 変更有 渡航予定地 オーストラリア アデレード 研修先 ENGLISH COLLEGE OF ADELAIDE 語学研修時間 9:00～16:00 6時間×5日間 のべ30時間 宿泊 9日間 ホストファミリー宅 単位認定に係わる認定時間 語学研修 30時間 文化交流 90時間 120時間 学校としての成績評価 評価は報告書内容による 学校としての単位認定基準 帰国後3週間以内に報告を提出した者 認定単位 2単位

科目の教育目標・授業計画 「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	201	科 目 名	建設と社会 I			科目区分	兼任
科 目 群	建 築 教 養	担当講師	河村 春美			履修区分	選択
開講学年	1	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	福祉住環境コーディネーター2級公式 テキスト			教材・参考書			
成績評価	定期試験 60% 課題提出物 30% 平常点や授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

福祉住環境コーディネーター2級試験に合格させることが目的である。公式テキストを元に試験対策として過去問題を使用しつつ解説する。試験対策として試験直前期には模擬試験を行う。また、試験対策とは別に福祉の面からみた住環境を学ぶ。

2. 到達目標

建築を学んでいく上で必要な福祉機器の知識・福祉制度の知識等の理解し、福祉住環境コーディネーター2級試験の合格を目指す。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（試験制度の解説、授業内容の説明）
2	高齢者の生活状況と住環境整備
3	介護保険制度の概要
4	障害者の生活と住環境
5	障害の定義ととらえかたの変遷～地域包括ケアと地域リハビリテーションの必要性
6	高齢者の身体的特性～在宅生活を支える介護の基本姿勢
7	高齢者に多い疾患の特徴（関節リュウマチ等）
8	高齢者に多い疾患の特徴（パーキンソン病等）～肢体不自由（脊髄損傷）
9	肢体不自由（進行性疾患、脳性麻痺等）
10	内部障害（心臓機能障害等）
11	聴覚・言語障害～知的・精神障害
12	介護保険とケアマネジメント～相談援助の方法
13	関連職種の関わり方～福祉住環境整備の進め方
14	段差の解消と床の選択～建具への配慮
15	スペースや家具・収納への配慮
16	玄関の住環境整備
17	まとめ
18	期末試験

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	202	科 目 名	建設と社会Ⅱ			科目区分	兼任
科 目 群	建 築 教 養	担当講師	河村 春美			履修区分	選択
開講学年	1	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	福祉住環境コーディネーター2級公式 テキスト			教材・参考書			
成績評価	定期試験 60% 課題提出物 30% 平常点や授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

福祉住環境コーディネーター2級試験に合格させることが目的である。公式テキストを元に試験対策として過去問題を使用しつつ解説する。試験対策として試験直前期には模擬試験を行う。また、試験対策とは別に福祉の面からみた住環境を学ぶ。

2. 到達目標

建築を学んでいく上で必要な福祉機器の知識・福祉制度の知識等の理解し、福祉住環境コーディネーター2級試験の合格を目指す。

3. 授業計画

後期	
1	屋内移動（廊下）～排泄
2	入浴～就寝
3	建築図面のルールと読み方～住宅建築における見積もりの基礎知識
4	福祉用具の意味と適用～スロープ・段差解消機等
5	リフト・吊具～生活動作補助用具
6	模擬試験
7	模擬試験
8	模擬試験
9	模擬試験
10	模擬試験
11	模擬試験
12	試験終了後は、実際の脊髄損傷者の住宅改修事例を基に 各自で改修プランを考え手描きにて平図面を作成する実習
13	試験終了後は、実際の脊髄損傷者の住宅改修事例を基に 各自で改修プランを考え手描きにて平図面を作成する実習
14	試験終了後は、実際の脊髄損傷者の住宅改修事例を基に 各自で改修プランを考え手描きにて平図面を作成する実習
15	試験終了後は、実際の脊髄損傷者の住宅改修事例を基に 各自で改修プランを考え手描きにて平図面を作成する実習
16	試験終了後は、実際の脊髄損傷者の住宅改修事例を基に 各自で改修プランを考え手描きにて平図面を作成する実習
17	試験終了後は、実際の脊髄損傷者の住宅改修事例を基に 各自で改修プランを考え手描きにて平図面を作成する実習
18	期末試験（発表・講評会）

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	301	科 目 名	建築計画A			科目区分	兼任
科 目 群	計画	担当講師	大田真			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	初学者の建築講座 建築計画			教材・参考書：プリント、写真（プロジェクター）			
成績評価	4 回の定期試験と授業内で出す課題点、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

環境、法規、寸法、歴史などの基礎知識をベースとして、独立住宅・集合住宅・事務所の建築計画の理論を学び、主に住空間・オフィス空間についての知識を幅広く身につける。

2. 到達目標

住空間・オフィス空間に関する知識・理論を、設計の実践に生かすことができる。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	第1章 計画と設計
3	建築計画における調査、 モジュール、 第8章 自然現象の知覚
4	第8章 視覚と建築
5	第8章 視覚と建築
6	第8章 視覚と建築・寒暑感覚と建築
7	第8章 寒暑感覚と建築
8	第8章 寒暑感覚と建築
9	第8章 聴覚と建築
10	第8章 聴覚と建築・近代建築三大巨匠の比較／考察
11	まとめ講義、問題演習
12	第2章 居住施設の計画（住洋式と住宅の変化）（戸建住宅）
13	第2章 居住施設の計画（戸建住宅）
14	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のゾーニング（その1）
15	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のゾーニング（その1）
16	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 解説・プレゼン：戸建住宅のゾーニング（その1）
17	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 夏季課題（任意提出）：住宅の住まい方の特徴をつかむ
18	課題発表、まとめ
後期	
1	ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のプランニング（その2）
3	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のプランニング（その2）
4	戸建住宅の事例研究 解説・プレゼン：戸建住宅のプランニング（その2）
5	課題発表、まとめ
6	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
7	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
8	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
9	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
10	第2章 居住施設の計画（集合住宅） 課題（任意提出）：集合住宅のユニットプラン（その1）

1 1	<u>集合住宅の事例研究</u>
1 2	課題発表、まとめ
1 3	第2章 居住施設の計画（細部計画）
1 4	第2章 居住施設の計画（細部計画） 階段
1 5	第6章 規模計画と経済効率・事務所ビルの変遷
1 6	第6章 事務所ビルの計画・事務所ビルの各部計画
1 7	<u>事務所ビルの事例研究</u>
1 8	（エコロジカル建築 <u>エコロジカル建築の事例研究</u> ）

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	302	科 目 名	建築計画B			科目区分	兼任
科 目 群	計画	担当講師	大田真			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	初学者の建築講座 建築計画			教材・参考書：プリント、写真（プロジェクター）			
成績評価	4 回の定期試験と授業内で出す課題点、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

多様な建築用途について、各用途における理論や考え方を身に付ける。

2. 到達目標

各用途に関する知識・理論を、設計の実践に生かすことができる。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	第6章 百貨店・スーパーマーケットの計画
3	第6章 店舗…物販店／飲食店の計画
4	第6章 店舗…物販店／飲食店の計画 課題：飲食店のプランニング
5	第6章 店舗…物販店／飲食店の計画 課題：飲食店のプランニング
6	課題発表、まとめ 解説・プレゼン：飲食店のプランニング
7	第3章 幼稚園の計画
8	第3章 幼稚園の計画
9	第3章 幼稚園の計画 幼稚園の事例研究
10	第3章 小学校・中学校の計画
11	第3章 小学校・中学校の計画
12	第4章 学校の事例研究 生活圏とコミュニティ施設 図書館の計画
13	第4章 図書館の計画 課題：図書館のプラン解析
14	第4章 図書館の計画 図書館の事例研究 解説：図書館のプラン解析
15	課題発表、まとめ
16	第4章 美術館の計画
17	第4章 美術館の計画
18	美術館の事例研究 夏季課題（任意提出）：美術館の見学・レポート
後期	
1	ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	第4章 コミュニティセンター・公民館の計画
3	第5章 高齢社会と建築計画 高齢化社会の今後の都市開発
4	第5章 病院の計画
5	第5章 病院の計画 高齢者施設の計画
6	第5章 高齢者施設の計画
7	病院・高齢者施設の事例研究
8	WCの計画（P.35 参考） 課題：WCの計画
9	WCの事例研究 解説・プレゼン：WCの計画
10	課題発表、まとめ
11	第6章 劇場・音楽ホール of 計画

1 2	第 6 章 劇場・音楽ホールの計画、事例研究	
1 3	第 6 章 劇場・音楽ホールの計画	課題・解説：オーディトリウムプラン解析
1 4	第 6 章 駐車場の計画 (P. 133 参考)	課題：駐車場のレイアウト
1 5	第 7 章 外部空間の把握	解説：駐車場のレイアウト
1 6	課題発表、まとめ	
1 7	第 7 章 外部空間の計画手法	
1 8	建物のリサイクル (リノベーション、コンバージョン)、事例研究	

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	304	科 目 名	建築史			科目区分	専任・実務経験教員
科 目 群	建築計画	担当講師	関村啓太			履修区分	講義
開講学年	1	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	大橋竜太ほか『コンパクト版 建築史』			教材・参考書 配布資料			
成績評価	中間試験 30%、期末試験 30%、レポート 30%、出席点 10%で評価する。						

1. 授業概要

日本及び西洋に分けて近代建築史までの概要を習得させる。様式史、技術史的観点から解説するとともに、現代建築への影響など、写真、図表等を用いてビジュアルに講義し、その意義について理解する。

2. 到達目標

建物の発生から、各地の建築作品の歴史を知ることにより、建築のあり方について考察できるようにする。

3. 授業計画

1	オリエンテーション（授業概要説明）
2	建築史とはなにか（概論）
3	日本の古代建築（寺院・神社）
4	日本の古代建築（住宅・都市）
5	日本の中世建築（寺院・神社・住宅）
6	日本の近世建築（城郭・住宅）
7	日本の近世建築（茶室、寺院）
8	東洋の建築（イスラーム、中国建築の概説）
9	映像『日本の近代建築の夜明け 旧岩崎邸庭園』上映ならび解説
10	日本建築史まとめ
11	ギリシャ建築・ローマ建築
12	ビザンチン建築・ロマネスク建築・ゴシック建築
13	ルネサンス建築・バロック建築
14	近代建築（産業革命から 19 世紀までの建築）
15	近代建築（モダニズム建築）
16	日本の近代建築（幕末から 1950 年代まで）
17	ヴァナキュラー建築の世界
18	世界建築史まとめ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	306	科 目 名	都市計画			科目区分	専任実務経験教員
科 目 群	建築計画	担当講師	小川 貴之			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書				参考書			
成績評価	2 回の定期試験と各回の演習						

1. 授業概要

都市計画とは何か。また、まちづくりとは何か。歴史的、技術的な側面から学び、特に近代以降に発展したその手法と現在の課題に着目し、理解する。また、最近の開発事例など具体的な取組みを随時紹介し、都市やまちを身近な問題として捉える。講義形式を基本とするが、KJ法を用いたワークショップを行うなど実用的な学習も体験する。担当教員は、都市計画マスタープラン策定委員に関わった経験があり、都市計画、まちづくりの実務経験に基づき実際の業務に近い授業を展開する。

2. 到達目標

事例を通して、都市計画、まちづくりの手法や法規的制約などの知識が習得できる。

3. 授業計画

前期	
1	<u>本講義の概要</u> ・都市とは何か（各自に考えてもらい、問題意識を持ってもらう）
2	都市計画とは ・都市計画、地域計画とは何か、また、まちづくりとは何かについて講義する。
3	<u>世界の都市計画史と思潮</u> ・古代から近世にいたる都市の形成史について ・近代都市の発展に影響を与えた都市論、専門家について
4	<u>日本の都市計画史</u> ・日本における古代から現代までの都市の形成史について ・都市計画の計画主体の変遷
5	<u>建築基準法の基礎知識・都市計画の枠組み・1</u> ・建築基準法と道路の関係 ・建築基準法、都市計画法がつくるトリビア建築たち
6	<u>建築基準法の基礎知識・都市計画の枠組み・2</u> ・都市計画法の位置づけと体系について。線引きとは？ ・都市のマスタープランとは？
7	<u>中間テスト前のまとめ</u>
8	<u>中間テスト</u>
9	<u>建築基準法の基礎知識・都市計画の枠組み・3</u> ・様々な規模の都市計画・・・開発許可制度、地区計画など
10	<u>諸外国の都市計画制度・現代都市計画の思潮</u> ・各国の都市計画制度について概観する ・現代の都市計画の考え方
11	<u>参加のデザインとまちづくり</u> ・参加のデザインと専門家の役割 ・ワークショップを用いた参加のデザイン
12	<u>参加のデザインとまちづくり</u> ・参加のデザインと専門家の役割 ・ワークショップを用いた参加のデザイン
13	<u>ワークショップ・1（問題発見）</u> ・グループに分かれて、ある課題についてフィールドワークを行う ・KJ法を用いて、「たから」と「あら」を発見する

1 4	<u>ワークショップ-2（提案＋発表）</u> ・ 前回の問題発見を踏まえて、具体的な提案（文章）を作成する ・ 各グループごとに問題発見から提案までを発表し、ディスカッションを行う
1 5	<u>テーマ別まちづくり-1</u> ・ 東日本大震災とまちづくり
1 6	<u>テーマ別まちづくり-2</u> ・ 東日本大震災とまちづくり
1 7	<u>期末テスト前のまとめ</u>
1 8	<u>期末テスト</u>

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	401	科 目 名	インテリア計画			科目区分	兼任
科 目 群	インテ リア	担当講師	益田あけみ			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	インテリア計画の知識			教材・参考書			
成績評価	2 回の定期試験と演習を総合的に評価する						

1. 授業概要

本来、建築とインテリアをまったく切りはなして考えることはできない。建築を扱う際に無視できない、インテリアの基礎知識を身につける。

2. 到達目標

人間工学に基づく基本的な事項をしっかりと学び、建築計画に生かせるようにするとともに、図面としては、平面図・展開図の表現と読み取りを修得する。

3. 授業計画

前期	
1	導入 講師自己紹介／建築に占めるインテリアの位置づけ／今後の授業計画
2	第 1 章、2：インテリアと住生活 ①②
3	第 1 章、3：インテリアと人間 人間の形態人体寸法の実測、教室の実測、
4	第 1 章 3：インテリアと人間 視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚
5	平面図、展開図、天井伏せ図の説明
6	展開図、天井伏図作成演習
7	計画の基本寸法、モジュール
8	平面プランの作成
9	作成した計画案の展開図、天井伏せ図、断面図
10	第 1 章 3：インテリアと人間 動作
11	第 1 章 3：インテリアと人間 行動、椅子、机、ベッド
12	第 2 章 3：インテリアエレメント 家具
13	第 1 章 4：光 色
14	第 1 章 6：インテリア構法、床、壁
15	第 1 章 6：天井、開口部、 法規関連：シックハウスと換気
16	参考資料により、内法、造作、和風造作
17	第 2 章 3：インテリアエレメント 照明器具 ウインドウトリートメント
18	第 1 章 1：インテリアの歴史

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	501	科 目 名	環境工学			科目区分	兼任
科 目 群	設備	担当講師	加藤 諭			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	初学者の建築講座 建築環境工学（第三版）			教材・参考書：プリントの配布			
成績評価	試験（中間及び期末試験）60%			その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。			

1. 授業概要

建築環境工学に関する基礎的な考え方、理論を理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した環境工学全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

後期	
1	授業ガイダンス
2	環境工学の概要・SI 単位系（本授業で取り上げる単位等）
3	採光①：明視の条件・光の単位・輝度対比・グレア・昼光率・均斉度・建物の採光特性・昼光利用等
4	採光②：人工採光（照明）・配光・照度計算・照明方式・色温度・照度基準・各種光源の特性と種別等
5	外部環境①：日較・年較差・デグリデ - ・卓越風都市環境と地球環境、ヒートアイランド、温暖化、オゾン層破壊等
6	外部環境②：日照・日射・日影・太陽の高度と方位角・日照時間と可照時間・日照の調整・南中時等
7	採光、外部環境まとめ、問題演習
8	色彩①：色の三属性・色の三原色（混色）・マンセル表色系・オストワルト表色・XY 表色・色彩心理効果等
9	色彩②：色の表れ方・演色性・色彩対比・色彩調整・安全色・建築及びインテリアへの色彩応用等
10	音響①：音の三要素・音の伝わり方・音の速度・音の合成・可聴域・等ラウドネス曲線・カテルパター効果等
11	音響②：明瞭度・了解度・残響時間・許容騒音レベル・建物の音響計画・遮音性能・防音と吸音等
12	色彩、音響まとめ、問題演習
13	自然換気：室内の空気環境・大気汚染物質・室内空気汚染原因・汚染物質と必要換気量・空気齢等
14	自然換気：自然換気特性（重力、風力）・各種換気算定（火気使用、シックハウス、法令）、機械換気3種等
15	熱環境①：熱移動の基本・熱伝導率・熱貫流率と熱貫流抵抗・熱放射・中空層と熱抵抗等
16	熱環境②：日射による熱への影響・相当外気温度差・日射遮蔽係数・建物の熱特性・壁の熱容量等
17	熱環境③：湿り空気・露点温度（結露点）・空気線図・結露現象・外部結露と表面結露・断熱効果等
18	換気、熱環境まとめ 問題演習

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	503	科 目 名	建築設備			科目区分	兼任
科 目 群	設備	担当講師	加藤 諭			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	初学者の建築講座 建築環境工学（第三版）			教材・参考書：プリントの配布			
成績評価	試験（中間及び期末試験）60％			その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。			

1. 授業概要

建築設備の各項（衛生・空調・電気）について用語・方式・法的基準・施工技術等について理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した建築設備全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	建築設備の概要：設備業態・設備資格・建築基準法との関連・設備と躯体関連
3	給水設備①：上水の概要・戸建住宅等の給水・給水圧の規定値・給水器具の分類・関連用語の解説
4	給水設備②：給水方式（5 方式）・受水槽の構造及び設置規定・受水槽の容量算定（給水計算）
5	給水設備③：給水ポンプの構造と種別・給水ポンプ能力の算定・給水配管材（口径と配管抵抗）
6	給湯設備：給湯方式・給湯器の構造と種別・出湯号数・電気式温水器の仕組み・給湯配管材
7	排水設備①：排水方式（合流・分流）・トラップの構造と規定値・トラップの封水破壊と保護・排水勾配
8	排水設備②：排水通気方式（ループ通気と伸張通気）・排水処理・浄化槽の構造と法的規定・排水管
9	排水設備③：特殊排水処理（厨房排水など）・雨水排水処理・排水桝の種別・排水槽の構造
10	衛生器具設備：衛生器具種別と特性・衛生器具の機能性
11	給排水設備まとめ、問題演習
12	ガス設備：ガス種別（LPG と LNG）・ガス圧区分・ガス漏れ警報器の設置規定・ガスの安全使用
13	消火設備①：消防法の構成・屋内消火栓、屋外消火栓の各構造と法令規定
14	消火設備②：スプリンクラー、ドレンチャー、パッケージ消火設備の各構造と法令規定
15	消火設備③：連結送水管、連結散水、特殊消火設備（ガス系・泡・粉末・水噴霧）の法令規定
16	衛生設備の配管方式①：PS（パイプスペース）の計画、MB（メーターボックス）の計画
17	衛生設備の配管方式②：配管方式（床上・床下・さや管ヘッダ方式）・衛生配管種別
18	ガス、消火設備まとめ、問題演習
後期	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要）
2	換気設備：機械換気の目的・機械換気方式・ファン類の種別・法令上の換気計算・全熱交換機等
3	排煙設備：建築排煙と消防排煙の目的・機械排煙方式・法令上の排煙規定・付室加圧給気防煙等
4	空調設備①：空気調和の基本・室内温熱環境・空気の状態変化・空調（冷暖房）負荷等
5	空調設備②：空調用熱源設備・冷凍機の特性と種別・ボイラーの特性と種別・冷却塔・ヒートポンプ
6	空調設備③：空気調和機（AHU・FCU）の特長・空調配管及びダクト、制気口、ダンパの役割
7	空調設備④：空気調和方式（単一ダクト、二重ダクトなど）・個別空調（パッケージ空調）等
8	換気・空調設備まとめ、問題演習
9	電気設備①：電気設備の概要・関連法規・電気基礎理論・受電・変電（キュービクル）・幹線等
10	電気設備②：動力設備・分電盤（動力盤）の構成・電力量計・回路の構成・自家発電及び蓄電池等

1 1	電気設備③：照明（電灯）コンセント設備・コンセントとスイッチの種別・照明器具と照明方式等
1 2	電気設備④：弱電設備（通信、LAN、ITV、TV共聴他）・避雷設備・自動制御設備等
1 3	防災設備①：非常照明（建基法）及び誘導灯、非常コンセント・無線通信補助設備（消防法）の基準等
1 4	防災設備②：自動火災報知・非常警報・非常放送・漏電火災警報器設備（消防法）の設置基準等
1 5	搬送設備：エレベータ及びエスカレータの構造、法令基準・その他搬送設備等
1 6	省エネルギー設備①：建築物省エネ法基準・PAL*と一次消費エネルギー係数・ライフサイクルコスト等
1 7	省エネルギー設備②：コージェネレーション・蓄熱槽・太陽光発電・燃料電池等
1 8	電気・防災設備まとめ、問題演習

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	601	科 目 名	建築法規			科目区分	兼任
科 目 群	建 築 法 規	担当講師	河村 春美			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	初めての建築法規			教材・参考書：建築関係法令集			
成績評価	定期試験の結果と出席状況と宿題提出率						

1. 授業概要

建築基準法の内容全般を理解する。

2. 到達目標

実務上必要な知識とともに、二級建築士試験レベルに必要とされる部分を重点的に習得する。
--

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	建築基準法の概要、法令用語の使い方
3	用語の定義－1（建築物、特殊建築物等）
4	用語の定義－2（耐火建築物、建築等）
5	面積と高さ－1（敷地面積、建築面積等）
6	面積と高さ－2（容積対象延べ面積、高さ、階数等）
7	問題演習
8	一般構造－1（採光）
9	前期中間試験前まとめ
10	一般構造－2（換気）
11	一般構造－3（天井高さ、便所等）
12	構造強度－1（木造一般）
13	構造強度－2（木造軸組み計算）
14	軸組み計算問題演習
15	構造強度－3（その他の構造）
16	耐火・防火（耐火建築物、準耐火建築物）
17	防火地域・準防火地域
18	前期期末試験前まとめ
後期	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	防火区画
3	避難施設－1（2 階段、避難階段等）
4	避難施設－2（排煙設備、非常用照明等）
5	道路と敷地
6	用途地域
7	建ぺい率
8	容積率－1（道路幅員による容積率の算定等）
9	問題演習

1 0	後期中間試験前まとめ
1 1	容積率－2（特定道路による容積率の算定等）
1 2	高さ制限－1（絶対高さ、道路斜線等）
1 3	高さ制限－2（道路斜線、2方向道路等）
1 4	高さ制限－3（隣地斜線、北側斜線）
1 5	問題演習
1 6	確認申請、建築手続き－1（確認申請等）
1 7	確認申請、建築手続き－2（建築手続き等）
1 8	後期期末試験前まとめ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	701	科 目 名	構造力学 1			科目区分	兼任
科 目 群		担当講師	殿廣 泰史			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	最新建築構造設計入門			教材・参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80％、平常点や授業への貢献度20％						

1. 授業概要

構造物に働く力の基本的な知識を習得し、実際の構造物を合理的に設計する上で必要な基礎的な事を学ぶ。

2. 到達目標

静定構造物において力のつり合いを用い、どの部分にどのような力が生ずるか解けるようになる。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	1 章 構造物に働く力 1. 建築物に働く力 1)色々な建築物 2)働く力 3)建築物の表現
3	2. 力の基本 1) 力 1-1 力の表示 1-2 力のモーメント 1-3 偶力および偶力のモーメント
4	2) 力の合成と分解 2-1 一点に働く力の合成・分解
5	2-2 平行な力の合成・分解 2-3 バリニオンの定理
6	2-4 平行でない数力の合成
7	3) 力の釣合い 1-1 一点に働く力の釣合い 1-2 作用点の違う力の釣合い
8	3. 構造物と荷重および外力 1. 支点と節点 1-1 支点 1-2 節点
9	2) 荷重および外力 2-1 種類と表示 2-2 作用のしかた
10	4. 安定・静定 1) 構造物の安定・不安定 2) 構造物の静定・不静定 3) 判別式
11	5. 反力 1) 反力 2) 反力の求め方
12	例-1、例-2
13	例-3、例-4
14	問題演習、まとめ講義
15	2 章 静定構造物の部材に生じる力 1. 構造物に生じる力
16	1) 構造物に生じる力の種類 1-1 軸方向力 1-2 せん断力 1-3 曲げモーメント
17	2) 部材に生じる力の求め方 2-1 軸方向力 2-2 せん断力・曲げモーメント
18	問題演習、まとめ講義
後期	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	3) 部材に生じる力の表し方 1-1 軸方向力図 1-2 せん断力図 1-3 曲げモーメント図
3	2. 静定梁 1) 単純梁 1-1 集中荷重 1-2 荷重とせん断力と曲げモーメントの関係
4	1-3 等分布荷重 1-4 等変分布荷重
5	1-5 モーメント荷重 2) 片持梁 例-1・例-2
6	3. 静定ラーメン 1) 片持梁系ラーメン 例-1
7	2) 単純梁系ラーメン 例-1
8	3) 3ピン式ラーメン 例-1
9	問題演習、まとめ
10	4. 静定トラス 1) トラス部材に生じる力
11	2) 節点法 2-1 図式解法 例-1

1 2	2-2 クレモナの図解法 例-1
1 3	2-3 算式解法 例-1
1 4	3) 切断法 例-1
1 5	4) トラス部材に生じる力の性質
1 6	二級建築士試験過去問題演習-1
1 7	二級建築士試験過去問題演習-2
1 8	全体まとめ講義

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	702	科 目 名	構造力学 2			科目区分	兼任
科 目 群	構造	担当講師	中村 円香			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	4 回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

不静定構造物の応力の求め方を中心に実務で必要な荷重算定・応力算定などの構造計算の基礎を習得する。同時に、構造力学 1 の復習を行うことで一級、二級建築士試験の力学範囲を理解する。さらに構造設計と関連づけた授業を行うことで実務との関連を意識させる。

2. 到達目標

一般的に実設計でも用いられる不静定構造物の応力分布を求める方法（一級建築士資格試験の出題範囲含む）を習得すること。フレーム構造物の崩壊の仕方、そのときの荷重を求める手法を知ること、より丁寧な構造設計が可能となることを理解する。木造の構造計算の概要を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス（授業概要説明）
2	不静定構造とは何か。免震構造ビデオ
3	鉛直荷重時応力算定（剛比）
4	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法手順説明）
5	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法例題 1）
6	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題 1）
7	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題解説）
8	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題 2・解説）
9	まとめ講義
10	試験の復習
11	水平荷重時応力算定（D 値法手順説明）
12	水平荷重時応力算定（D 値法例題）
13	水平荷重時応力算定（D 値法演習問題 1）
14	水平荷重時応力算定（D 値法演習問題 2）
15	一級建築士例題（固定モーメント法・D 値法）
16	崩壊荷重 全塑性モーメント 演習
17	崩壊荷重 演習
18	まとめ講義
後期	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	試験の解説・DVD
3	構造力学 1 の復習（反力）
4	構造力学 1 の復習（応力）
5	構造力学 1 の復習（トラス）
6	構造力学 1 の復習（材料力学）
7	構造力学 1 の復習（座屈）

8	構造力学 1 の復習（総復習）
9	構造力学 1、2 総合問題
10	二次設計（層間変形角、偏心率）
11	二次設計（保有水平耐力の検討 例題）
12	まとめ講義
13	木造の構造計算（壁量例題）
14	木造の構造計算（風例題）
15	木造の構造計算（つりあいのよい壁量例題）
16	自分の設計図面の構造検討
17	自分の設計図面の構造検討
18	検討結果発表、解説

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	703	科 目 名	材料力学			科目区分	専任
科 目 群	構造	担当講師	井上 静			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	2 回の定期試験、その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

部材の断面を安全でかつ経済的なものとなるよう、形や大きさを決める際の構造材料の力学的性質などについて理解する。

2. 到達目標

部材に生ずる力に対して、安全でかつ経済的に部材を設計する基本的解法を習得する。

3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	3 章 部材の性質と応力度 1. 断面の性質 1) 断面一次モーメントと図心
3	2) 断面二次モーメント
4	3) 断面係数
5	4) 断面二次半径 5) 断面の主軸
6	問題演習・解説
7	2. 構造材料の力学的性質 1) 応力度 1-1 垂直応力度
8	1-2 せん断応力度 2) ひずみ度 2-1 縦ひずみ度 2-2 横ひずみ度 2-3 せん断ひずみ度
9	3) 弾性体の性質 3-1 弾性・塑性・弾性係数 3-3 ヤング係数 3-4 せん断弾性係数
10	4) 材料の強さと許容応力度 4-1 応力度－ひずみ度曲線 4-2 許容応力度
11	3. 部材に生ずる応力度 1) 曲げモーメントを生ずる部材 1-1 梁の曲げ応力度
12	1-2 梁のせん断釣合い 1-3 梁のせん断応力度
13	1-4 梁の主応力度 1-5 曲げ材の設計
14	問題演習・解説
15	2) 引張力を生ずる部材
16	3) 圧縮力を生ずる部材 3-1 棒状部材の座屈 3-2 長柱公式
17	3-3 圧縮材の設計 3-4 偏心荷重を受ける圧縮材
18	問題演習・解説

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	704	科 目 名	鉄筋コンクリート構造			科目区分	兼任
科 目 群	構造	担当講師	殿廣 泰史			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験） 6 0 %、課題 2 5 %、平常点や授業への貢献度 1 5 %						

1. 授業概要

鉄筋コンクリートとは、建築物の骨組を構成する構造材料のうち、主要な材料の一つである。本講では鉄筋コンクリート構造の力学的特性を学び、それらを踏まえた設計法の基礎知識を身につける。

2. 到達目標

鉄筋コンクリート構造の基礎的な許容応力度設計ができるようになる。

3. 授業計画

後期	
1	授業ガイダンス
2	鉄筋コンクリート造の特徴：材料特性など
3	鉄筋コンクリート造の特徴：力学特性など
4	R C ラーメン構造 スラブの規定等概略
5	R C ラーメン構造 片持ちスラブ主筋の計算解説
6	R C ラーメン構造 四辺固定スラブ主筋の計算解説
7	R C ラーメン構造 梁の規定等概略
8	R C ラーメン構造 梁主筋の計算解説
9	R C ラーメン構造 梁帯筋の計算解説
1 0	R C ラーメン構造 梁の総合問題計算解説
1 1	講義まとめ、問題演習
1 2	R C ラーメン構造 柱の規定等概略
1 3	R C ラーメン構造 柱主筋の計算解説
1 4	R C ラーメン構造 柱帯筋の計算解説
1 5	R C ラーメン構造 柱の総合問題計算解説
1 6	R C ラーメン構造 基礎の規定等概略
1 7	R C ラーメン構造 基礎の計算解説
1 8	講義纏め、問題演習

科目の教育目標・授業計画「2020年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	705	科 目 名	鉄骨構造			科目区分	専任
科 目 群	構造	担当講師	井上 静			履修区分	講義
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	最新建築構造設計入門			教材・参考書			
成績評価	2回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

構造設計の概要と構造物に作用する荷重・外力の種類学び、鋼構造に用いられる鋼材の種類や特性を理解する。

2. 到達目標

鋼構造の知識の習得と共に、接合部および主要な部材を決定するまでの方法論を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	5章 構造設計の考え方 1. 構造設計の概要 1) 構造設計
3	2) 構造設計の流れ
4	3) 耐震規定「3.」
5	2. 荷重および外力の計算 1) 荷重の種類 2) 荷重の組合せ
6	7章 鋼構造 1. 鋼構造 1) 概要 2) 鋼材 3) 許容応力度
7	2. 許容応力度設計 1) 接合部「8.」 1-1 高力ボルト
8	1-2 溶接
9	2) 引張材の設計「4.」 2-1 設計式 2-2 有効断面積
10	2-3 設計手順
11	3) 圧縮材の設計「5.」 3-1 設計式 3-2 許容圧縮応力度
12	3-3 設計手順
13	4) 部材の設計 4-1 応力と応力度 4-2 幅厚比
14	5) 梁の設計「6.」 5-1 形鋼梁の設計 5-2 許容曲げ応力度
15	5-3 形鋼梁の設計手順
16	6) 柱の設計「7.」 6-1 形鋼柱の設計
17	6-2 形鋼柱の設計手順
18	講義まとめ、演習問題

科目の教育目標・授業計画 「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	8 0 1	科 目 名	建築施工			科目区分	専任
科 目 群	建築施工	担当講師	関村 啓太			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	座学
教 科 書	建築施工教科書			教材・参考書：イラスト建築生産入門			
成績評価	前期、後期の中間と期末における試験と、毎時間ごとに提出する理解確認シートにより評価。						

1. 授業概要

建築施工に関する専門用語、工法などを総合的に学ぶ。

2. 到達目標

工事の流れとそれぞれの工事内容について、必要な知識を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	建築施工のあらまし
3	建設業の変遷・施工法の変遷
4	請負契約・直営と請負契約・施工者の選定
5	入札・談合
6	見積方式・工事計画
7	工事計画の進め方・工程表
8	ネットワーク工程表
9	仮設工事・登り栈橋
10	各種足場・地下工事
11	土工事
12	山留め
13	杭工事・既製杭
14	場所打ち杭
15	各種杭工法
16	鉄筋コンクリート工事・鉄筋の加工
17	構造図の見方・圧接継ぎ手
18	講義まとめ
後期	
1	授業ガイダンス
2	型枠工事
3	場所打ちコンクリート工事・コンクリートの品質
4	各種コンクリート製品工事・PC・コンクリートブロック・ALC
5	鉄骨系工事・工場加工
6	現場作業
7	木質系工事・材料・金物
8	造作工事
9	枠組み壁工法
10	中間試験前講義まとめ
11	内装仕上げ工事・防水工事・各種防水

1 2	アスファルト防水
1 3	シーリング工事
1 4	タイル工事
1 5	石工事
1 6	屋根工事
1 7	左官工事
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	802	科 目 名	建築材料			科目区分	専任
科 目 群	建築施工	担当講師	関村 啓太			履修区分	講義
開講学年	1	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	廣瀬幸男ほか『絵とき 建築材料』オーム社			教材・参考書 大野義照 監修『ビジュアルハンドブック 必修建築資料 改訂版』実教出版			
成績評価	前期中間試験 22.5%、前期期末試験 22.5%、後期中間試験 22.5%、後期期末試験 22.5%、平常点 10%						

1. 授業概要

建築を構成する材料を包括的にしめし、その性質を習得する。

2. 到達目標

建築設計を行うために使用する建築材料の特性について正しく理解し、素材の選択ができるようにする。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（授業概要説明）
2	1 章 建築材料の概要 1・1 建築と建築材料 1 材料と歴史 2 規格 3 環境
3	1・2 分類（用途別・天然・人工） 1・3 建築材料と性能 1 建築と性能 2 建築材料と品質
4	2 章 木材 1 木材の使われ方 2 種類と用途 3 特徴
5	4 木取り、規格、等級
6	製材の規格 欠点 5 集成材 新しい材料と可能性
7	木材まとめ
8	2・2 鋼材 1 鋼材の使われ方 2 種類 3 製鋼と加工
9	4 鋼の性質と用途 5 鋼材の規格
10	1) 棒鋼 2) 形鋼・鋼管・軽量形鋼 6 ステンレス鋼
11	7 接合 1) 高力ボルト接合 2) 溶接接合
12	鋼材まとめ
13	2・3 コンクリート 1 使われ方 2 セメント 3 骨材
14	アルカリ骨材反応 4 水 5 コンクリート ワークビリティ他
15	2) 凝結・硬化過程における性質 3) 硬化コンクリートの性質
16	b) 変形に関与する性質 弾性係数 4) 耐久性（中性化、凍害、塩害） 4) 調合設計
17	水セメント比の決定～単位セメント量～単位粗骨材 6) 混和剤 7) コンクリートの種類
18	レディーミクストコンクリート～プレストレストコンクリート～ブロック
後期	
1	オリエンテーション
2	3 章 仕上材料～概要～木、竹製品～合板～フローリング～銘木
3	(2) 造作用集成材 (3) 繊維板、パーティクルボード (4) 竹
4	3.3 セメント・コンクリート・石膏製品 スレート瓦～セメントボード系～窯業系サイディング
5	せっこうボード～ALC板～繊維補強コンクリートパネル
6	3.4 金属製品 1) アルミニウム 2) 銅 3) 亜鉛 板材～線材
7	(4) 各種金物 デッキプレート～溶接金網～ラス網
8	3.5 タイル・レンガ 瓦 衛生陶器
9	3・6 ガラス 製法と種類 ガラスブロック
10	3・7 石材 採石・加工・仕上げ 人造石
11	3・8 左官・吹付材料 セメントモルタル～石膏プラスター～しっくい～土壁～吹付材料

1 2	3・9 畳、繊維製品 カーペット～紙・クロス 3・10 プラスチック材料
1 3	アクリル樹脂～ポリカーボネート プラスチックの性質 3・11 塗料
1 4	(4) 各種塗料 3・12 接着剤 種類と性質
1 5	4 章 防水材料 5 章 防火・耐火、断熱・防音材料
1 6	住宅計画の仕上表を作る～新しい材料（1）
1 7	住宅計画の仕上表を作る～新しい材料（2）
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	803	科 目 名	建築構法			科目区分	専任
科 目 群	施工	担当講師	中島 修			履修区分	講義・演習
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	3D 図解による建築構法 市ヶ谷出版			教材・参考書			
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。						

1. 授業概要

建物の仕組みはどうなっているのか、どのような構造体があるのか等、基礎的な「知識」と「考え方」あるいは「成り立ち」を学ぶ。

2. 到達目標

建築の全体像を理解する手掛りとなる知識を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（授業概要説明）
2	建築に何を求めるか
3	建築という言葉の意味
4	グループワーク「理想の住まい」①ブレインストーミング
5	グループワーク「理想の住まい」②プレゼンテーション
6	グループワーク「理想の住まい」③レポート
7	名作から建築のしくみを知る 「吉村順三：軽井沢の山荘」ドローイング
8	ドローイング続き
9	建物の性能について
10	建物の土地への固定に関する構法「地業」と「基礎」
11	建物の配置と水平・垂直に関する構法「地縄」と「遣り方」
12	材料と道具
13	在来軸組工法 ①継手・仕口
14	在来軸組工法 ②基礎
15	在来軸組工法 ③土台・大引・根太・床
16	在来軸組工法 ④柱・梁・筋違・貫・間柱
17	在来軸組工法 ⑤小屋組
18	在来軸組み工法⑥まとめ
後期	
1	オリエンテーション
2	屋根の構法
3	外周壁の構法
4	内装の構法
5	階段の構法
6	開口部の構法
7	名作から建築のしくみを知る 「安藤忠雄：住吉の長屋」モデリング
8	モデリング続き
9	企画と構法 その1
10	企画と構法 その2

1 1	企画と構法 その3
1 2	基本設計と構法 その1
1 3	基本設計と構法 その2
1 4	基本設計と構法 その3
1 5	実施設計と構法 その1
1 6	実施設計と構法 その2
1 7	実施設計と構法 その3
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	804	科 目 名	建築積算			科目区分	兼任
科 目 群	建築生産	担当講師	原 弘光			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築数量積算基準			教材・参考書 積算テキスト・種積算資料			
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築数量積算基準と例題の解説および演習を行うことで、建築価額の内容や構成などを学ぶ。
--

2. 到達目標

数量積算技術の算出方法の基礎の修得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業概要説明
2	積算概論① 定義、役割、業務の説明。総則の説明
3	直接仮設① 基準の解説、用語の説明
4	直接仮設② 計測・計算、例題の説明
5	土工地業① 基準の解説、用語の説明
6	土工地業② 基準の解説、用語の説明
7	土工地業③ 計測・計算、例題の説明
8	直接仮設・土工地業のまとめ
9	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
10	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
11	鉄筋① 基準の解説、基準の解説、用語の説明
12	鉄筋② 基準の解説、基準の解説、用語の説明
13	鉄筋③ 基準の解説、基準の解説、用語の説明
14	コンクリート・型枠・鉄筋① 計測・計算、例題の説明
15	コンクリート・型枠・鉄筋② 計測・計算、例題の説明
16	コンクリート・型枠・鉄筋③ 計測・計算、例題の説明
17	問題演習（1）
18	問題演習（2）
後期	
1	オリエンテーション
2	鉄骨① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
3	鉄骨② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
4	鉄骨③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
5	鉄骨④ 計測・計算、用語の説明
6	仕上① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
7	仕上② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
8	仕上③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
9	仕上④ 計測・計算、例題の説明
10	仕上⑤ 計測・計算、例題の説明
11	鉄骨・仕上のまとめ

1 2	改修① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
1 3	改修② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
1 4	内訳書① 作成、単価（刊行物記載確認）
1 5	内訳書② 作成、単価（刊行物記載確認）
1 6	内訳書③ まとめ
1 7	問題演習（1）
1 8	問題演習（2）

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	803	科 目 名	建築構法			科目区分	専任
科 目 群	施工	担当講師	中島 修			履修区分	講義・演習
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	3D 図解による建築構法 市ヶ谷出版			教材・参考書			
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。						

1. 授業概要

建物の仕組みはどうなっているのか、どのような構造体があるのか等、基礎的な「知識」と「考え方」あるいは「成り立ち」を学ぶ。

2. 到達目標

建築の全体像を理解する手掛りとなる知識を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（授業概要説明）
2	建築に何を求めるか
3	建築という言葉の意味
4	グループワーク「理想の住まい」①ブレインストーミング
5	グループワーク「理想の住まい」②プレゼンテーション
6	グループワーク「理想の住まい」③レポート
7	名作から建築のしくみを知る 「吉村順三：軽井沢の山荘」ドローイング
8	ドローイング続き
9	建物の性能について
10	建物の土地への固定に関する構法「地業」と「基礎」
11	建物の配置と水平・垂直に関する構法「地縄」と「遣り方」
12	材料と道具
13	在来軸組工法 ①継手・仕口
14	在来軸組工法 ②基礎
15	在来軸組工法 ③土台・大引・根太・床
16	在来軸組工法 ④柱・梁・筋違・貫・間柱
17	在来軸組工法 ⑤小屋組
18	在来軸組み工法⑥まとめ
後期	
1	オリエンテーション
2	屋根の構法
3	外周壁の構法
4	内装の構法
5	階段の構法
6	開口部の構法
7	名作から建築のしくみを知る 「安藤忠雄：住吉の長屋」モデリング
8	モデリング続き
9	企画と構法 その1
10	企画と構法 その2

1 1	企画と構法 その3
1 2	基本設計と構法 その1
1 3	基本設計と構法 その2
1 4	基本設計と構法 その3
1 5	実施設計と構法 その1
1 6	実施設計と構法 その2
1 7	実施設計と構法 その3
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	9 0 1	科 目 名	設計製図 I			科目区分	専任・実務経験教員
科 目 群	設 計 製 図	担当講師	星裕一郎 中島修			履修区分	実習
開講学年	1 年	開講学期	通年	単位数	8	授業形態.	必修
教 科 書	超入門 建築製図			教材・参考書 参考図面を適宜配布			
成績評価	全課題提出による評価 1 0 0 %						

1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。この授業では教員の企業経験を活かし、課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。
--

2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC 造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。
--

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（用具の使い方など）
2	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
3	「製図の基本」線，文字，記号の練習
4	「製図の基本」線，文字，記号の練習
5	課題－2：製図の表現
6	製図の表現
7	製図の表現
8	課題－3：RC の演習 その1 店舗
9	RC の演習 その1
10	RC の演習 その1
11	RC の演習 その1
12	課題－4：RC の演習 その2 住宅
13	RC の演習 その2
14	RC の演習 その2
15	課題－5：RC カフェの設計 その1
16	RC カフェの設計 その1
17	RC カフェの設計 その1
18	RC カフェの設計 その1
後期	
1	課題－6：木造住宅のコピー その1
2	木造住宅のコピー その1
3	木造住宅のコピー その1
4	木造住宅のコピー その1
5	木造住宅のコピー その1
6	課題－7：木造住宅のコピー その2

7	木造住宅のコピー その2
8	木造住宅のコピー その2
9	木造住宅のコピー その2
10	木造住宅のコピー その2
11	木造住宅のコピー その2
12	課題－8：木造住宅兼店舗の設計
13	木造住宅兼店舗の設計
14	木造住宅兼店舗の設計
15	木造住宅兼店舗の設計
16	木造住宅兼店舗の設計
17	木造住宅兼店舗の設計
18	木造住宅兼店舗の設計

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	902	科 目 名	設計製図Ⅱ		科目区分	専任・実務経験教員	
科 目 群	設計製図	担当講師	小川 貴之		履修区分	実習	
開講学年		開講学期		単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築製図			教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

各課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。この授業では教員の企業経験を活かし、課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1課題「集まって住む（集合住宅）」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	作図1（平面図・断面図・立面図）
6	作図2（平面図・断面図・立面図）
7	作図3（まとめ）
8	プレゼンテーション準備
9	発表
10	第2課題「保育園の設計」 課題説明、事例調査
11	事例発表、エスキスチェック
12	エスキスチェック
13	エスキスチェック
14	作図1（平面図・断面図・立面図）
15	作図2（平面図・断面図・立面図）
16	作図3（まとめ）
17	プレゼンテーション準備
18	発表

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	9 0 4	科 目 名	CAD I			科目区分	兼任
科 目 群	設計製図	担当講師	小島 善文・伊東 達三			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	実習
教 科 書	なし 授業内に配布			教材・参考書：演習データ			
成績評価	毎回の課題提出と、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

CAD の基本操作を学ぶ。

2. 到達目標

演習問題を通して、CAD の基本操作を修得する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	作図の基礎（1）
3	作図の基礎（2）
4	作図の基礎（3）
5	作図の基礎（4）
6	作図の基礎（5）
7	製図の基礎（1）
8	製図の基礎（2）
9	製図の基礎（3）
10	製図の基礎（4）
11	製図の基礎（5）
12	効率的な作図（1）
13	効率的な作図（2）
14	効率的な作図（3）
15	3Dモデリング（1）
16	3Dモデリング（2）
17	3Dモデリング（3）
18	3Dモデリング（4）

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	9 0 5	科 目 名	CADⅡ			科目区分	専任・兼任
科 目 群	設計製図	担当講師	安松 一雄・関村 啓太			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	実習
教 科 書				教材・参考書：プリント、演習データ			
成績評価	毎回の課題提出と、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

AUTOCAD の基本操作を学ぶ。

2. 到達目標

課題図面の作成を通して、作図から 3D 表現までを実務で活用できるレベルまで修得する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	AUTOCAD の基本操作と概要（起動・終了方法・画面構成・コマンド入力・マウスなど）
3	基本 1_作成コマンド（線分・オブジェクトスナップ・円・円弧・四角形・ポリゴン・楕円など）
4	基本 2_修正コマンド（移動・オフセット・鏡像・尺度変更・トリム・延長など）
5	基本 3_修正コマンド（複写・回転・ストレッチ・面取り・フィレット・ハッチングなど）
6	基本の復習
7	応用 1_（RC 階段平面図のトレースなど）
8	応用 2_（RC 階段断面図のトレースなど）
9	応用 3_（RC 造便所平面のトレースなど）
10	応用 4_（木造便所詳細図など）
11	応用 5_（RC 階段平面図の設計変更など）
12	応用まとめ_（住宅平面図トレースなど）
13	応用まとめ_（住宅平面図トレースなど）
14	応用まとめ_（住宅平面図トレースなど）
15	発展 1_（木造階段詳細、レイアウト画面の使用など）
16	発展 2_（3D モデリング操作の基本）
17	発展 3_（3D レンダリング ファンズワース邸）
18	発展 3_（3D レンダリング ファンズワース邸）

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1102	科 目 名	パースペクティブ		科目区分	専任・兼任・実務経験教員	
科 目 群	デザイン	担当講師	小川 貴之・牟禮 智絵子・足立真輝		履修区分	演習	
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	基本・建築製図と表現方法			教材・参考書 プリント			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

軸測投影法（アクソノメトリック）、透視図法（1 消点透視法、2 消点透視法）の表現方法を学ぶ。

2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する 課題に基づいた演習とするが、有名建築を題材とし、クライアントへのプレゼンテーションに活かせる手法を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいたプレゼンテーション手法を指導する。

3. 授業計画

前期	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソノメトリック）・ブロック 1
5	軸測投影法（アクソノメトリック）・ブロック 2
6	軸測投影法（アクソノメトリック）・立方体 1
7	軸測投影法（アクソノメトリック）・立方体 2
8	軸測投影法（アクソノメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
10	色・着彩（2）
11	軸測投影法（課題）
12	軸測投影法（課題）
13	軸測投影法（課題）
14	軸測投影法（課題）
15	軸測投影法（課題）
16	色・着彩（1）
17	色・着彩（2）
18	軸測投影法・まとめ
後期	
1	夏休み課題（講評会）
2	1 消点透視法（パース） 1
3	1 消点透視法（パース） 2
4	2 消点透視法（パース） 1
5	2 消点透視法（パース） 2
6	2 消点透視法（課題） ビル
7	2 消点透視法（課題） ビル
8	2 消点透視法（課題） ビル

9	2 消点透視法（課題）ビル
1 0	2 消点透視法（課題）ビル（着彩）
1 1	2 消点透視法（課題）ビル（着彩）
1 2	2 消点透視法（応用） 1
1 3	2 消点透視法（応用） 2
1 4	2 消点透視法（応用） 3
1 5	2 消点透視法（応用） 4
1 6	簡易パースの演習 1
1 7	簡易パースの演習 2
1 8	消点透視法まとめ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	1105	科 目 名	造形演習			科目区分	専任、兼任
科 目 群	デ ザ イ ン	担当講師	中島修・牟禮 智絵子・足立真輝			履修区分	演習
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態.	選択必修
教 科 書	色彩			教材・色鉛筆・トータルカラー,ポスターカラー等			
成績評価	作品評価、提出状況、平常姿勢から総合的に評価する。						

1. 授業概要

構成作品の制作を通じて、色彩理論などの色彩の基本を学ぶ。

2. 到達目標

建築のアイデアを人に伝えることのできるような描画力を身につける。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	色鉛筆の使い方/描画・混色の仕方/色の三原色/色分けによって構成を考える
3	色の三属性/ トータルカラーの色チップで制作
4	平面構成 直線分割 無彩色と2色相のトーンで表現(1)
5	平面構成 直線分割 無彩色と2色相のトーンで表現(2)
6	同時対比
7	平面構成 イメージ構成
8	平面構成
9	平面構成
10	形の基本:立方体・直方体・円筒・円錐形を描く
11	形の基本:形の複雑な形(石膏)/身近なモノのスケッチ
12	空間を捉え方:幾何形体 2 個以上の組み合わせ
13	空間を捉え方:静物スケッチ
14	空間を捉える:室内の空間スケッチ(1)
15	空間を捉える:室内の空間スケッチ(2)
16	人物クロッキー(1)
17	人物クロッキー(2)
18	人物クロッキー(3)

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名		建築学科	
科目番号	1202	科 目 名	資格講座・学科			科目区分	専任	
科 目 群	特別講座	担当講師	関村 啓太			履修区分	選択	
開講学年		開講学期	通年	単位数	4	授業形態	座学	
教 科 書	2 級建築施工 学科試験テキスト			教材・参考書：2 級建築施工管理問題解説収録版 2018 年				
成績評価								

1. 授業概要

2 級建築施工管理技術認定試験、二級建築士の出題傾向を解説し、過去問題を解かせ理解を深める。

2. 到達目標

2 級建築施工管理技術認定試験、二級建築士、学科試験の合格。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス
2	環境①
3	環境②
4	力学①
5	力学②
6	施工共通
7	法規①
8	法規②
9	法規③
10	施工①
11	施工②
12	施工③
13	施工④
14	施工⑤
15	施工⑥
16	施工⑦
17	施工管理①
18	施工管理②
後期	
1	模擬試験①
2	模擬試験②
3	模擬試験③
4	模擬試験④
5	模擬試験⑤
6	二級建築士対策（計画）
7	二級建築士対策（計画）
8	二級建築士対策（計画）
9	二級建築士対策（法規）
10	二級建築士対策（法規）
11	二級建築士対策（法規）

1 2	二級建築士対策（構造）
1 3	二級建築士対策（構造）
1 4	二級建築士対策（構造）
1 5	二級建築士対策（施工）
1 6	二級建築士対策（施工）
1 7	模擬試験①
1 8	模擬試験②

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	1203	科 目 名	資格講座・設計			科目区分	兼任
科 目 群	特 別 講 座	担当講師	原田 智章			履修区分	演習
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態.	選択
教 科 書	なし			教材・参考書：プリント・各材料			
成績評価	授業における提出図面						

1. 授業概要

これまで学んだ製図手法に基づき、与えられた課題を短時間でまとめ上げていく能力を学ぶ。これは、同様な方法で行われる建築士製図試験の練習となるものでもある。

2. 到達目標

課題について、具体的に与えられた条件下において、短時間で構想をまとめる能力を修得する。

3. 授業計画

後期	
1	授業ガイダンス（2級建築士製図試験について）
2	課題① 木造2階建ての併用住宅図面のトレース
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	課題② RC3階建ての併用住宅のエスキース
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	課題② RC3階建ての併用住宅の作図
15	〃
16	〃
17	〃
18	〃

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	1401	科 目 名	現代建築論			科目区分	専任
科 目 群	設計インテ リアコース	担当講師	星裕一郎			履修区分	選択必修
開講学年	2 年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	なし			教材・参考書			
成績評価	レポート 90% 平常点や授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

現代建築の潮流と展望を、現在国内外で活躍する建築家像と彼らの作品群を通して考える。

2. 到達目標

学生達が自らの言葉で現代建築について論述することで、現代建築の潮流を概観する視点を育てる。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（講義概要説明）
2	伊東豊雄
3	妹島和世・西沢立衛 SANAA
4	Rem Koolhaas / O.M.A.
5	m.v.r.d.v
6	Herzog & de meuron
7	安藤忠雄
8	J.Pawson
9	青木淳
10	隈研吾
11	藤本壮介、五十嵐淳、長谷川剛
12	篠原一男、アトリエワン
13	Steven Holl、F.O.Gehry
14	Jean Nouvel、D.Perrault
15	Glenn Murcutt / Case Study House
16	構造家の仕事
17	都市
18	ランドスケープ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	1104	科 目 名	プレゼンテーション技法			科目区分	専任・兼任
科 目 群	設計インテ リアコース	担当講師	星裕一郎・足立真輝			履修区分	実習
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	選択必修
教 科 書	なし			教材・参考書：プリントを適宜配布			
成績評価	課題提出を評価 1 0 0 %						

1. 授業概要

自ら設定したテーマについて、それを表現する 1 枚のプレゼンボードを制作することで、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。

2. 到達目標

エスキス、発表、講評、議論を通し建築デザインに必要な、概念的思考力を身につける。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス 課題説明
2	課題 1 ダイアグラム エスキス
3	提出
4	クリティーク 1
5	クリティーク 2
6	クリティーク 3
7	クリティーク 4・発表
8	課題 2 コンセプト模型 エスキス
9	提出
10	クリティーク 1
11	クリティーク 2
12	クリティーク 3
13	クリティーク 4・発表
14	課題 3 プレゼンボード エスキス 1
15	エスキス 2
16	エスキス 3
17	エスキス 4
18	最終成果品 提出・講評

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	1403	科 目 名	C A D製図			科目区分	兼任
科 目 群	設 計 コ ー ス	担当講師	小島善文／伊東達三			履修区分	演習
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	Vectorworks パーフェクトバ イブル 2018/2017 対応			教材・参考書			
成績評価	毎回の課題と、授業の理解度で総合的に評価する。						

1. 授業概要

VectorWorks・RenderWorks の操作方法を学習し、図面作成・プレゼンテーションのスキルを学ぶ。
--

2. 到達目標

2 D / 3 D の各種課題を通して、総合的な表現・操作が出来るようになる。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	2D 基本 初期設定、図形の書き方、2D 基本課題
3	2D 基本 図形の書き方、2D 基本作図課題
4	2D 基本 図形の書き方、2D 基本作図課題つづき
5	2D 応用 図面の書き方、2D 家具図面作図課題
6	2D 応用 図面の書き方、2D 平面図作図課題
7	2D 応用 図面の書き方、2D 平面図作図課題
8	2D 応用 図面の書き方、2D 平面図作図課題
9	3D 基本 3D 図形の書き方、3D 基本課題
10	3D 基本 3D 図形の書き方、3D 基本モデリング課題
11	3D 応用 3D 建物の書き方、3D 建物モデリング課題
12	3D 応用 3D 建物の書き方、3D 建物モデリング課題
13	3D 応用 3D 建物の書き方、3D 建物テクスチャー課題
14	住宅課題 住吉の長屋の平面図を作成
15	住宅課題 住吉の長屋の立面図・断面図を作成
16	住宅課題 住吉の長屋のパースを作成
17	住宅課題 住吉の長屋のパースを作成つづき
18	住宅課題 住吉の長屋の図面・パースをプレゼンテーションする

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1306	科 目 名	卒業設計			科目区分	専任
科 目 群		担当講師	小川 貴之・中島 修			履修区分	実習
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	3	授業形態	必修
教 科 書				教材・参考書 プリント等			
成績評価	提出作品、プレゼンテーションなどの平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

これまで学んだ計画論、設計手法、製図方法に基づき、自身で設定した課題を作品としてまとめ上げる実践的能力を学ぶ。

2. 到達目標

自身で設定した課題について事例調査・研究を行い、構想をまとめ作品として表現し、発表まで行える能力を修得する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	基本条件の検討（敷地／建築用途／類似建物）
3	基本条件の検討（敷地／建築用途／類似建物）
4	基本条件の決定（敷地／建築用途／類似建物）
5	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
6	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
7	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
8	中間発表
9	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）
10	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）
11	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）・中間提出
12	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
13	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
14	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
15	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
16	全体図面作成（各図面のトータルプレゼンテーション）・模型制作
17	全体図面作成（各図面のトータルプレゼンテーション）・模型制作
18	卒業設計発表会

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1423	科 目 名	ディテール演習		科目区分	兼任	
科 目 群	施工コース	担当講師	尾林 徹		履修区分	実習	
開講学年	2	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	選択必修
教 科 書	「木造・S造・RC造ディテール集」			教材・参考書 なし			
成績評価	毎回の授業での提出物 60% 授業参加姿勢 40%						

1. 授業概要

施工図や詳細図を読んで、納まりを考え、それを図面として表現できるよう基本的な事例を使い習得することを目的としています。

2. 到達目標

収まりの良い図面配置が描けるようになる。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス
2	壁・床・天井の納まりの基本
3	内部建具枠詳細図 1
4	内部建具枠詳細図 2
5	軒先納まり詳細図 1
6	軒先納まり詳細図 2
7	階段詳細図 1
8	階段詳細図 2
9	階段詳細図 3
10	階段詳細図 4
11	事例演習
12	納まりスケッチ
13	納まりスケッチ
14	納まりスケッチ
15	納まりスケッチ
16	事例演習
17	事例演習
18	まとめと講評

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1421	科 目 名	施工計画		科目区分	専任	
科 目 群	施工コース	担当講師	関村啓太		履修区分	講義	
開講学年	2	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	選択必修
教 科 書	なし			教材・参考書			なし
成績評価	中間試験お50%、期末試験50%。						

1. 授業概要

現場管理を行うために実務に即した基本的な知識を学び、安全の確認についての感覚を身につける。

2. 到達目標

現場管理を行うために実務に即した基本的な知識を用いて施工計画を検討できるようになる。
--

3. 授業計画

前期	
1	
2	施工管理と工事の準備
3	仮設足場の構造
4	仮設足場における施工法と構造
5	仮設足場における安全の確認 1
6	仮設足場における安全の確認 2
7	仮設足場における安全の確認 3
8	型枠工事の概要
9	型枠工事における施工法と構造
1 0	型枠工事における安全の確認 1
1 1	型枠工事における安全の確認 2
1 2	型枠工事における安全の確認 3
1 3	解体工事における概要
1 4	解体工事における安全の確認 1
1 5	解体工事における安全の確認 2
1 6	解体工事における安全の確認 3
1 7	安全労働衛生法 1
1 8	安全労働衛生法 2

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	1422	科 目 名	施工管理			科目区分	専任
科 目 群	施工コース	担当講師	中島 修			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	選択必修
教 科 書				教材・参考書			
成績評価	プレゼンテーション及びレポートを総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築に関わる技術者の基礎知識として、施工管理の仕事の内容や流れを学ぶ。

2. 到達目標

建設業法による分類の各工事業種について理解する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	施工管理とは
3	建設業法について
4	安全管理 その1 グループディスカッション
5	安全管理 その2 プレゼンテーション
6	品質管理 その1 グループディスカッション
7	品質管理 その2 プレゼンテーション
8	工程管理 その1 グループディスカッション
9	工程管理 その2 プレゼンテーション
10	人・物・金の管理
11	工事業種
12	現場監督の仕事
13	就業環境の安全第一
14	環境的要因と人的要因
15	危険予知活動
16	仮設計画（1）
17	仮設計画（2）
18	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画「2020 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1304	科 目 名	卒業設計			科目区分	専任
科 目 群	施工コース	担当講師	小川 貴之・中島 修			履修区分	実習
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	3	授業形態	必修
教 科 書				教材・参考書 プリント等			
成績評価	提出作品、プレゼンテーションなどの平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

実際の施工を想定した課題をテーマとし、今年度は製図室（学内）什器の生産プロセスを体験し施工することで実践的能力を学ぶ卒業設計とする。

2. 到達目標

自身で設定した課題について事例調査・研究を行い、構想をまとめ作品として表現し、発表まで行える能力を修得する。

3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス
2	現調
3	実測し図面作成
4	デザイン案
5	意匠設計
6	施工図作成
7	製作図作成
8	積算
9	工程表
10	工事計画
11	製作（準備訓練）
12	製作（実作）その1
13	製作（実作）その2
14	製作（実作）その3
15	製作（実作）その4
16	製作（実作）その5
17	製作（実作）その6
18	卒業設計発表会